

黒宮大塚墳墓群



指定区分	史跡
読みかた	くろみやおおつかふんぼぐん
所在地	倉敷市真備町尾崎
指定年月日	令和5年3月14日
解説	<p>弥生時代後期後葉(2世紀後半頃)に築造された長径約35m、短径約30mの楕円形墳丘墓(1号墓)と長辺約12m、短辺約10mの方形墳丘墓(2号墓)からなる墳墓群で、東西交流の大動脈となっていた小田川流域を望む、見晴らしの良い標高約40mの丘陵先端に位置する。昭和52年の倉敷考古館による発掘調査で、1号墓の墳頂中央部の竪穴式石室からヒスイ製勾玉等の副葬品のほか、その周辺から特殊器台などの墳墓祭祀に用いられた多数の供献土器が出土したことから、弥生時代の有力者の墓であることが明らかになった(出土品は倉敷考古館所蔵)。</p> <p>墳丘規模はこの時期の日本で随一の大きさを誇る楕築遺跡(国史跡)に次ぐ規模であり、全国的にもかなり大きいものと評価できるため、吉備地域の社会を知る上でも貴重である。</p> <p>平成31年の倉敷市教育委員会による精細な測量調査で、隣接する2基の墳丘墓で構成される墳墓群であることが明確になった。</p>
アクセス方法	井原鉄道 吉備真備駅から徒歩33分 玉島ICから自家用車で15分
公開状況	公開
設備	 駐車場
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	史跡
ぶんかざいめい (文化財名)	黒宮大塚墳墓群
よみかた	くろみやおおつかふんぼぐん
しよざいち (所在地)	倉敷市真備町尾崎
していしたひ (指定した日)	令和5年3月14日
せつめい	弥生時代終わり頃(今から約1,850年前)の有力者のお墓。楕円形(だえんけい)(1号墓:約30mの大きさ)と長方形(2号墓:約10mの大きさ)の2基が並んで見つっています。昭和52年の発掘調査では、1号墓で見つかった石室内からヒスイ製勾玉(まがたま)のほか、お墓のまつりに使われた多くの土器が見つかり、弥生時代のお墓であることが明らかになりました(出土品は倉敷考古館で所蔵)。